

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名	献血推進事業		担当課	保健センター	
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	昭和39年度～
	施策	健康づくりの推進		種別	任意的事務
	基本事業	地域医療体制の確保		市民協働	事業協力
予算科目コード	01-040101-03 単独	根拠法令・条例等	安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
「採血及び供血あっせん業取締法」が昭和31年に制定され被採血者の保護と採血業の規制が主眼となっていた。昭和39年の閣議決定により、献血が本格的に開始された。	厚生労働省・都道府県・日本赤十字社が推進している「県民が医療で必要とする血液製剤を県民の献血により確保する」体制を目指し献血を実施する。献血への理解と協力、参加を求めるため広報・ホームページで周知を図る。献血実施においては、献血推進団体や事業所の協力を得て実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
県内の医療に必要な輸血用血液を県民の献血により確保する体制を確立する。献血に関する市民の理解、献血受け入れを円滑に進め、安定した血液製剤確保につなげていく。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、いつでも安心して医療が受けられる体制を整備する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
全国的にも献血者の停滞があり、改善は難しい。改善は難しいが、手段や方法を工夫しながら啓発を継続的にしていく必要がある。	20歳の献血等のキャンペーンを継続し献血協力人数の維持に努めた。少しでも献血しやすいように休日の予定も継続している。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
献血に理解・協力する市民及び在勤協力者数（人）	1,331.00	1,254.00	1,289.00	1,300.00	1,300.00
献血に理解・協力する献血推進団体・事業所件数（箇所）	7.00	7.00	9.00	8.00	8.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	全国的にも献血者の停滞がある。手段や方法を増やしながら継続していく必要がある。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	血液製剤を確保するには献血以外に手段は無い。献血推進事業は人命に関わる血液の供給であり、公共性が高い事業であることから、継続していく必要がある。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	43	247	242	343	343
	国・県支出金	0	0	0	70	70
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	43	247	242	273	273
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	129.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	529	0	0
トータルコスト		43	247	771	343	343